



こんにちは♪

民主 苦小牧号外

2026年
1.25
No.1126



日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!

“確かな野党” 日本共産党

総選挙に突入です。通常国会の冒頭解散は59年振りです。新年度の大事な予算を決める場である通常国会を先送りするなんて、無責任極まりありませんね。高市首相は「補正予算で万全の体制を整えた」と力説しましたが、軍事費まで計上したとんでもない補正予算でした。

高市首相は総選挙の理由を「高市早苗が内閣総理大臣でよいのかどうか、国民に決めてもらう」と述べました。しかし、高市首相自ら、違法企業献金を受け取っていたことや、統一協会から支援を受けていたことを国会で追及されることを恐れた“自己都合解散”です。

高市首相が掲げる「強い経済」は、国民生活には恩恵がなく、大軍拡計画のために防衛費を毎年増やす一方で、医療費予算の削減で国民への負担を増やす方針です。実質賃金も上がらず、年金も増えないのに物価だけどんどん高くなり、暮らしはますます大変です。

さらに、高市首相は食品の消費税ゼロを掲げました。国民世論に押され、掲げないわけにはいかなかったのでしょうか。国民の多くが消費税の減税や廃止を望んでいたのに、それを無視したのは自民党であり、高市首相です。まさに、今回は選挙目当てですね。

立憲民主と公明党による新党『中道改革連合』にも驚きです。安保法制反対を掲げていた立憲民主党が、自民党と一緒に安保法制をつくった公明党と組むなんて、節操がありません。自民党の裏金問題を追及してきたのも立憲民主党でしたが、「企業団体献金の禁止」の方針も捨ててしまいました。「原発再稼働反対」も方向転換して容認に変わりました。大事な問題で自民党と同じ立場であり、国民への裏切りではないでしょうか。

19日付の朝日新聞の世論調査では、「新党に期待するか」という設問では、「期待する」が28%、「期待しない」が66%です。「新党は高市政権に対抗できる勢力か」との設問には、「対抗できる」が20%、「対抗できない」が69%です。すでに国民は「新党は自民党と同じで、期待できない」と思っているようです。

一貫してブレない日本共産党は、自民党と高市政権に対抗できる“確かな野党”ではないでしょうか。高市政権の高い支持率に怯えず、新党の動きにひるまず、国民生活と平和を守るために、総選挙でも頑張る決意です。